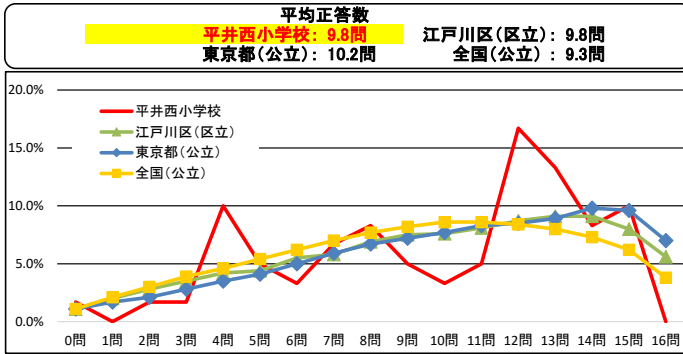


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】平井西小学校

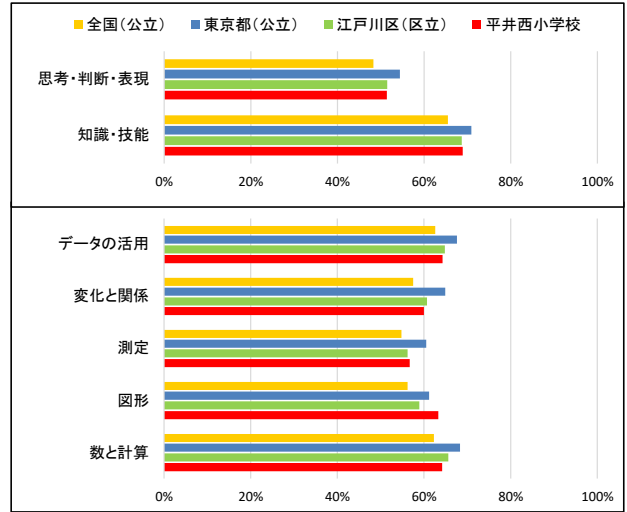
正答数分布



【平均正答率の差】

平井西小学校	61%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-3.0

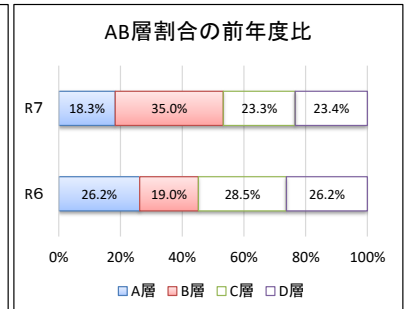
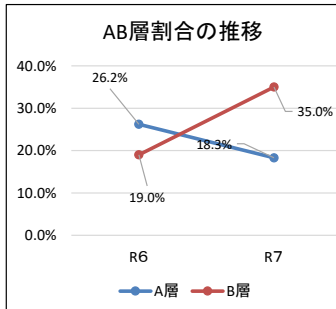
「領域別」の結果



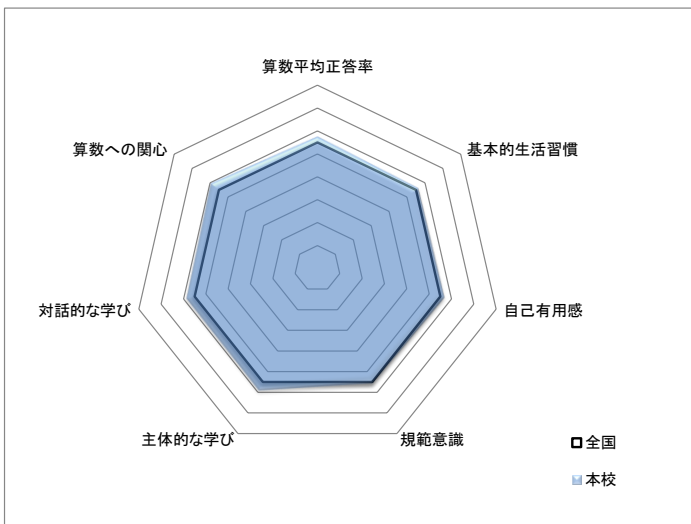
四分位における割合(都全体の四分位による)

算数	四分位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 7~10問	D層 0~6問
平井西小学校	18.3%	35.0%	23.3%	23.4%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

算数への関心、対話的な学び、主体的な学びは全国平均を上回っている。関心の高さから、平均正答率も全国を上回っていると考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・宿題を毎日確実に行う。
- ・学校で行う教育活動は全て家庭に返却し、結果や情報を共有することで意欲の向上を図る。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

- ・本校のAB層の割合は53.3%と、全国42.3%に比べ、約10ポイント以上上回る結果となった。また、江戸川区48.6%、東京都52.1%に比べても、上回る結果が出ている。そのため、本校のAB層の割合は江戸川、東京、全国に比べても高い結果が出ていることが分かる。
- ・A層は減ったが、B層が大きく増えた。(学力の底上げができた。C層→B層に)

《学校の取組》

・教員の指導力向上

- ・校内研究の取り組み。
- ・授業内で学び合える時間を確保している。
- ・主幹教諭、主任教諭からの指導助言。

・基礎学力の保障

- ・朝の計算タイム「西っ子Study Everyday」
- ・東京ベーシックドリルテストの苦手問題に取り組む時間を確保する。
- ・1、3学期の水曜五時間目の補習

・学習習慣の確立

- ・西っ子家庭ルール週間
- ・家庭学習の時間(学年×10分)
- ・タブレットを使用した自主学習の推奨

・AB層の育成

- ・習熟度別の学習により、C層をB層へ、B層をA層へと繋げられるようにする。
- ・教科書問題の他に、習熟プリントを活用している。
- ・トライの補修対象をC、D層から、B、C層にする。